

授業の具体的展開例

T: まず、ブロックで見ていきたいと思います。
 C: ブロックを7つ、置く。
 □□□□□□□ (ブロック図)
 T: こうして置きましたが、次に3人入ってきます。
 □□□□□□□ □□□ (ブロック図)
 こう置きました。
 次に、8人出て行くときに、どうしましたか。
 □□■□■□■□■□■←裏返す。(ブロック図)
 C: (実際にブロックを置く)
 T: 確かめてみますよ。絵で確かめます。
 人の絵を置いて確かめる。
 T: 式に書いて確かめますよ。
 まず、7人、次に3人、入ってきたのだから
 C: たすです。
 T: $7+3$ で、次に8人出ていったから
 C: ひくです。
 T: $7+3-8$ こたえは
 C: 2人です。
 T: 入って確かめるよ。(実際にロープの中に入ったり、出て行ったりして確かめる。)

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、この単元の4時間目である。これまでの授業で学習してきた内容を活用して、文章のみの問題から考えさせるので、児童が自力で思考する時間やペアでの意見交流の時間を確保することが必要である。

また、文章の内容をより分かりやすく理解させるために、文中にアンダーラインを引いたり、答えに付ける単位を明確にするために○で囲んだりする操作を取り入れた。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、これまで学習してきた「加・加」「減・減」「減・加」「加・減」の場面の解き方を取り上げることになる。

引き算を苦手に行っている児童は、この計算に抵抗を感じやすい。よって、こうした児童に対処するためにも、前から順に計算すればよいことに気付かせる。

また、児童が意見を発表する際、説明の手順も以前より増える。自分の考えを相手によく分かるように表現する力を伸ばしたい。

「活用」の力を評価する具体的な目安としては、

- ① 文章問題を読み、ラインを引き、単位を○で囲み、立式して、答えを求め、自分の考えを説明することができる。
- ② 絵から、数図ブロックを並べ、立式し、答えを求めることができる。
- ③ 気付いていなかったことについて、説明を聞き、理解することができる。
- ④ 説明を聞いても理解できない。

の4点が、考えられる。④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。次時までには、②の状態になるように、半具体物や具体物を用いながら、適用問題の場면을充実させる。

さらに、学習のまとめでは、授業の振り返りを書くことを通して大切なことを自分の言葉でまとめ、互いの学びや気付きを交流し、算数に対する意識を高めさせる。

児童のワークシート

3つのかずのけいさん 1年()

もんだい

子どもが 7人 わに入っています。
 そこに 3人 入ってきました。
 そして、8人 出て行きました。
 わの中には いま なん人もいますか。

ず

しき こたえ()

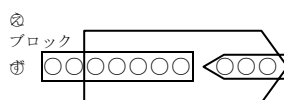
ふりかえり



板書例

めあて なん人になるか、1つのしきにしてかんがえよう。

子どもが7人わに入っています。
 そこに3人入ってきました。そして、
 8人出ていきました。
 わの中にはいまなん人もいますか。



$$7+3-8=2$$

④ こたえ 2人

① 1つのしきにする

③ まえからじゅんにけいさんをしていく

児童の
考え

児童の
考え

児童の
考え

れんしゅう

子どもが4人あそんでいます。
 そこに6人きました。そ
 して2人かえりました。
 いまなん人のこっていますか。

HOME

本時の流れへ

